

# Ⅲ これからの注力課題

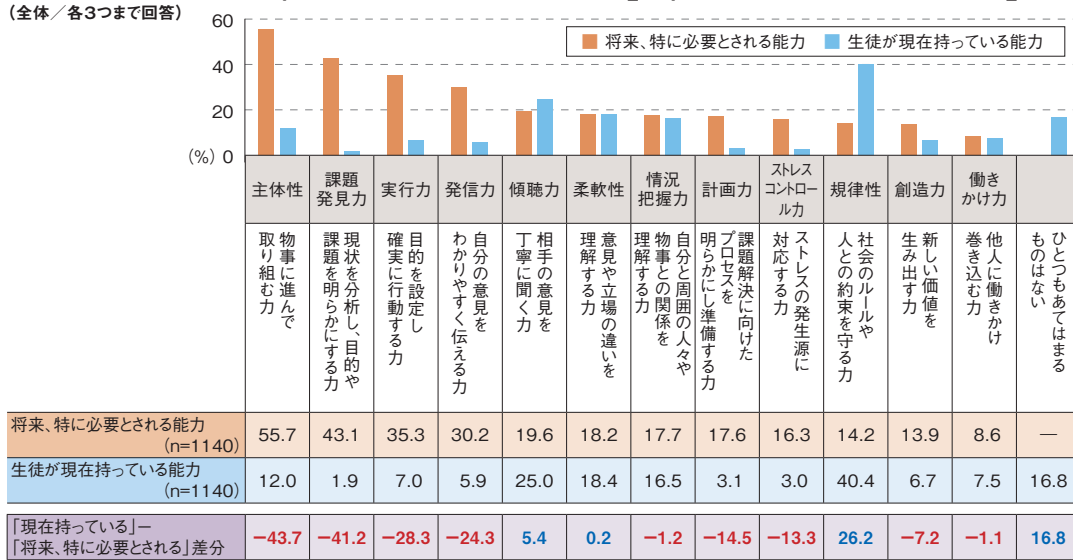
## 1 学習意欲を高め、自ら動き課題解決できる人材育成を目指す

生徒に将来必要な能力と現在持っている能力の差分は大

経済産業省で定義されている『社会人基礎力』の12の能力要素のうち、生徒にとって「将来、社会で働くに当たり特に必要とされる能力」と「現在持っている能力」を、それぞれ3つまで選んでもらった(図表17)。将来必要な能力は、「主体性」56%、「課題発見力」43%、「実行力」35%、「発信力」30%が上位。現在持っている能力は「規律性」40%が突出、「傾聴力」25%、「柔軟性」18%、「状況把握力」17%が続く。将来の必要性は高いが、現状では低い能力は「主体性」「課題発見力」(いずれも40ポイント以上の差)、さらに「実行力」「発信力」「計画力」「ストレスコントロール力」などである。

高校生が現在持っている能力について、高校1〜3年生を対象に実施した『高校生価値意識調査2014』と比較すると(図表18)、上位の顔ぶれは

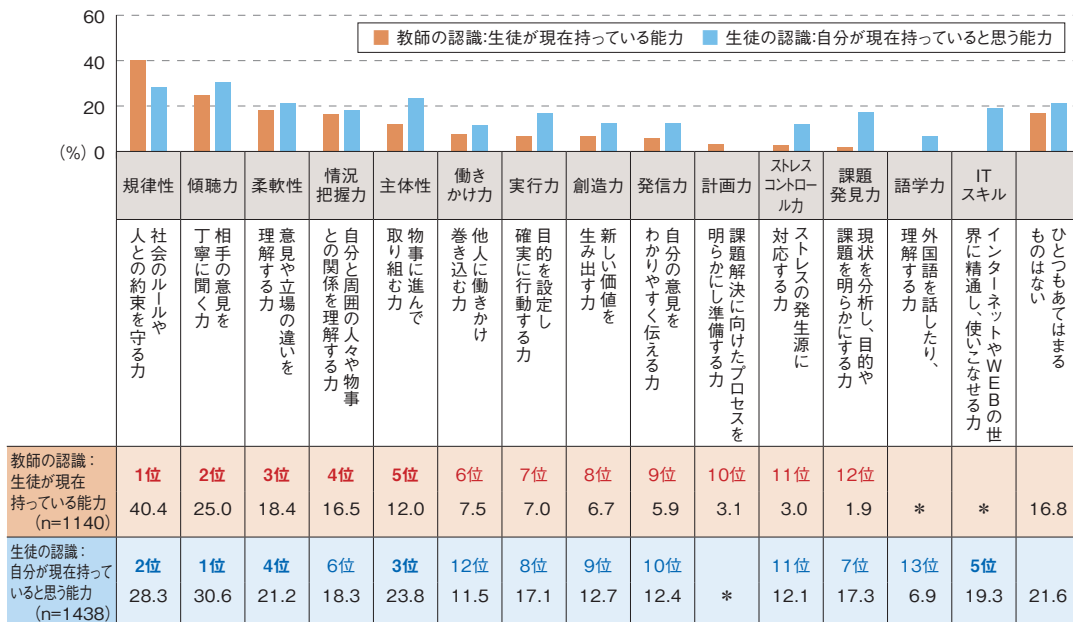
図表 17 社会人基礎力:「将来、特に必要とされる能力」と「生徒が現在持っている能力」



※「将来、特に必要とされる能力」の降順

図表 18 社会人基礎力:「生徒が現在持っている能力」: 教師と生徒の認識の比較

(全体 / 教師の認識: 3つまで回答・生徒の認識: 複数回答)



※「教師の認識:生徒が現在持っている能力」の降順 ※[\*]:該当項目なし  
※「生徒の認識」は「高校生価値意識調査2014」(リクルート進学総研)より

同様であり、教員の認識と生徒の自覚はほぼ一致しているといえる。

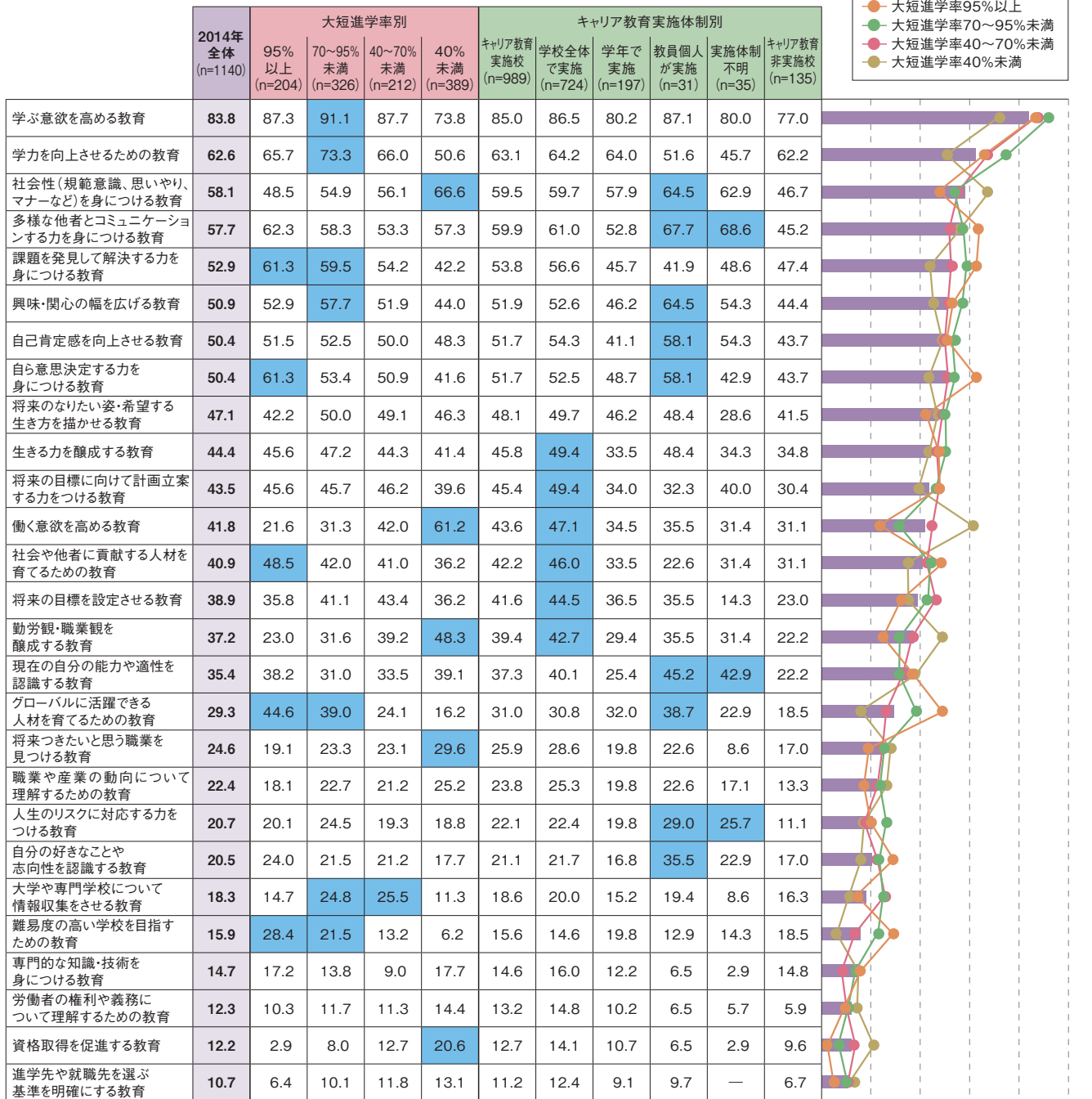
「学ぶ意欲を高める教育」を8割強が行いたいと回答

教員自身が今後注力していきたい教育をすべて選んでもらったところ(図表19)、「学ぶ意欲を高める教育」84%が突出。以下「学力を向上させるための教育」63%、「社会性を身につける教育」58%、「多様な他者とコミュニケーションする力を身につける教育」58%が続く。

大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「多様な他者とコミュニケーションする力」「課題を発見して解決する力」「自ら意思決定する力」の習得、「グローバルに活躍できる人材」育成が高い。反対に進学率が低い高校ほど「社会性」「働く意欲」「勤労観・職業観」の醸成が高い。

キャリア教育の実施体制別にみると、キャリア教育を学校全体で実施している高校では、「生きる力」「将来の目標に向けて計画立案する力」「働く意欲」「勤労観・職業観」といった、社会に出た未来を見据えたキャリア教育の観点に沿った教育に注力したいという意欲を強くみることが出来る。

図表 19 今後注力していきたい教育 (全体/複数回答)



※ [2014年 全体]の降順 ※ [2014年 全体]より5ポイント以上高い数値を■色で表示

(%) 0 20 40 60 80 100



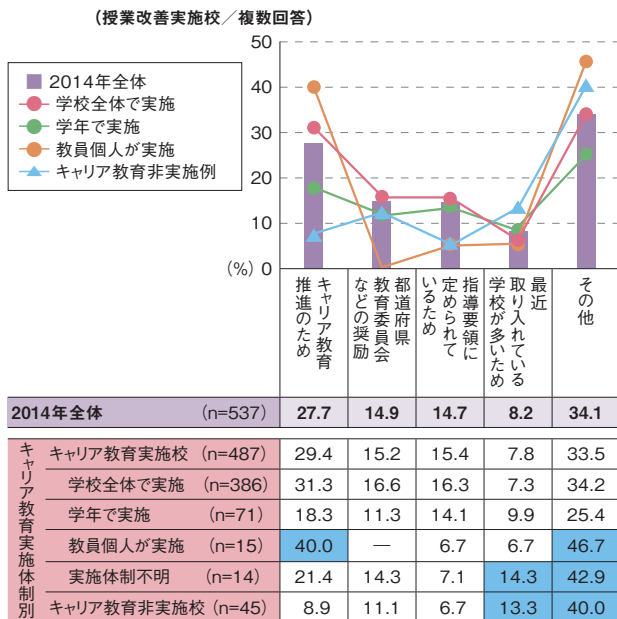
# 2 キャリア教育と連動し、急速に進む授業改善

アクティブラーニングなど  
授業改善の取り組みは47%

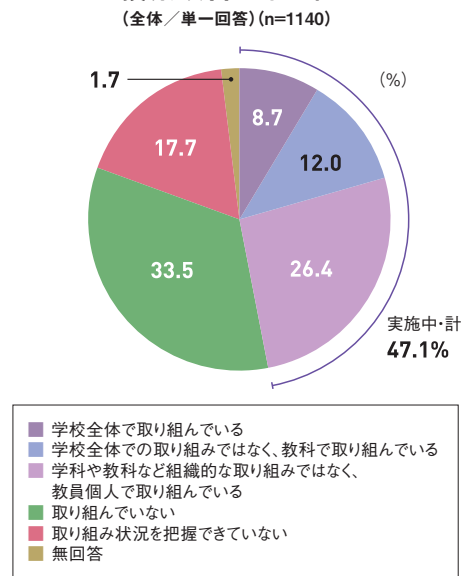
アクティブラーニング型授業といった一斉講義型ではない授業への転換など、授業改善の取り組み状況を尋ねた。改善を実施中であるのは全体の47%と高い(図表20)。実施方法の内訳は「教員個人で取り組んでいる」26%が最多であり、「学校全体」9%または「教科で」12%など組織的な取り組みは少ない。

授業改善に取り組む理由をたずねたところ(図表21)、「キャリア教育推進のため」28%が最多。以下、「都道府県教育委員会などの奨励」「指導要領に定められているため」「いずれも15%」が続く。キャリア教育実施校は「キャリア教育推進のため」、非実施校では「最近取り入れている学校が多いため」がそれぞれトップである。「その他」の回答が34%と多いため自由回答を分類してみると(図表22)、「生徒の学力向上のため」「生徒のため」「生徒の学習意欲・やる気

図表 21 授業改善の実施に取り組む理由



図表 20 アクティブラーニングなど  
授業改善の取り組み



※「2014年 全体」の降順 ※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示

図表 22 授業改善に取り組む理由：その他(授業改善実施校/「その他」自由回答を分類)

	順位	理由	2014年全体 (n=537) % (件)	授業改善実施状況別		
				学校全体で導入 (n=99) % (件)	教科で導入 (n=137) % (件)	教員個人が導入 (n=301) % (件)
生徒	1位	生徒の学力向上のため	7.1 (38)	7.1 (7)	5.8 (8)	7.6 (23)
	3位	生徒のためになるから	3.5 (19)	3.0 (3)	2.9 (4)	4.0 (12)
	4位	生徒の学習意欲・やる気を引き出すため	3.0 (16)	2.0 (2)	2.2 (3)	3.7 (11)
	5位	生徒に将来必要な能力を身につけさせるため	2.4 (13)	4.0 (4)	2.9 (4)	1.7 (5)
	6位	生徒に主体的な学び・活動を促すため	2.2 (12)	— (—)	2.2 (3)	3.0 (9)
	授業内容	2位	指導力の向上・わかる授業のため	3.9 (21)	6.1 (6)	2.2 (3)
学校	7位	学校の方針・管理職の指導による	2.0 (11)	4.0 (4)	2.2 (3)	1.3 (4)

※カテゴリごと「2014年 全体」の降順

### フリーコメント 4 授業改善に取り組む理由(その他)抜粋

- 真の意味での学力をつけるため(学ぶ力、社会人基礎力も含めて)。(静岡県/私立/普通科/キャリア教育実施校)
- 本校の生徒の良さを活用し立体的な授業を展開するため。(埼玉県/県立/普通科/キャリア教育実施校)
- 人を育てるために必要な方法だから。(北海道/道立/その他/キャリア教育実施校)

- 一斉授業だけだと、生徒に興味や関心を持たせることができない。(青森県/県立/総合学科/キャリア教育実施校)
- これからの世の中で必要とするスキルを身につけさせるためには、アクティブが最良と考え、取り組んでいる。(埼玉県/私立/普通科/キャリア教育実施校)

引き出すため「生徒」への効果を期待する理由や、「指導力の向上」わかる授業のため「斉講義型の限界から」など【授業内容】の現状を改善は教員の役割として当然といった態度がうかがえる。

**グループワーク・プレゼンテーションなどで生徒の活動をうながす**

授業改善に「取り組んでいる」回答者に具体的な取り組みを書いてもらった内容を分類したところ（図表23）、「指導法・ツール」「授業科目・内容」「実施体制」に関する記述が多くあがった。

【指導法・ツール】としては、「グループワーク」16%、「プレゼンテーション」10%、「グループディスカッション」7%、「課題研究」6%、「ICT活用」5%があがった。【授業科目・内容】での取り組みは「英語・外国語」10%が突出。留学・コンテスト・英語での授業など、外国語の実践機会づくりがあがった。【実施体制】は「校内研修」7%が最多。授業改善の取り組み状況別にみると、学校全体で取り組んでいる高校では【実施体制】「校内研修」【指導法】「ICT活用」が高く、アクティブラーニングを実践できる教員の養成・必要なインフラ整備を進める学校が多いことがわかる。

図表 23 授業改善の取り組み内容（授業改善実施校／自由回答を分類）

	2014年 全体 (n=537) % (件)	授業改善実施状況別			
		学校全体で導入 (n=99) % (件)	教科で導入 (n=137) % (件)	教員個人が導入 (n=301) % (件)	
指導法・ツール	1位 グループワーク・グループ学習	16.2 ( 87)	12.1 ( 12)	14.6 ( 20)	18.3 ( 55)
	3位 プレゼンテーション・発表	9.5 ( 51)	2.0 ( 2)	13.1 ( 18)	10.3 ( 31)
	4位 グループディスカッション・討論・ディベート	7.4 ( 40)	1.0 ( 1)	10.2 ( 14)	8.3 ( 25)
	7位 課題研究・探求活動・課題解決型学習	6.0 ( 32)	7.1 ( 7)	10.9 ( 15)	3.3 ( 10)
	8位 ICT活用	5.2 ( 28)	13.1 ( 13)	2.2 ( 3)	4.0 ( 12)
	10位 ペアワーク・ペア学習	4.3 ( 23)	3.0 ( 3)	6.6 ( 9)	3.7 ( 11)
	12位 協調学習・協同学習・ジグソー法・CoREF	3.2 ( 17)	5.1 ( 5)	1.5 ( 2)	3.3 ( 10)
	14位 生徒の能力(主体性・課題発見力・思考力など)育成	2.4 ( 13)	6.1 ( 6)	1.5 ( 2)	1.7 ( 5)
	16位 言語活動	2.2 ( 12)	7.1 ( 7)	2.2 ( 3)	0.7 ( 2)
19位 学び合い・学びの共同体・生徒が教え合う	2.0 ( 11)	2.0 ( 2)	0.7 ( 1)	2.7 ( 8)	
授業科目・内容	2位 英語・外国語	10.1 ( 54)	2.0 ( 2)	27.0 ( 37)	5.0 ( 15)
	9位 専門科目・実技・演習・創作活動	4.7 ( 25)	4.0 ( 4)	7.3 ( 10)	3.7 ( 11)
	11位 国語・現代文・古典・読書	3.4 ( 18)	— (—)	6.6 ( 9)	3.0 ( 9)
	14位 数学	2.4 ( 13)	— (—)	4.4 ( 6)	2.3 ( 7)
	16位 地理・歴史・公民・現代社会	2.2 ( 12)	— (—)	2.2 ( 3)	3.0 ( 9)
取り組み・実施体制	4位 校内研修(講師招聘・研究授業)の実施	7.4 ( 40)	33.3 ( 33)	1.5 ( 2)	1.7 ( 5)
	4位 教員個人による取り組み	7.4 ( 40)	2.0 ( 2)	1.5 ( 2)	12.0 ( 36)
	13位 学科コース・教科による取り組み	2.6 ( 14)	2.0 ( 2)	5.1 ( 7)	1.7 ( 5)
	16位 学校全体・校長・学内組織による取り組み	2.2 ( 12)	9.1 ( 9)	0.7 ( 1)	0.7 ( 2)
	20位 外部研修への参加・学校視察	1.9 ( 10)	2.0 ( 2)	0.7 ( 1)	2.3 ( 7)

※カテゴリーごと「2014年 全体」の降順 ※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示

フリーコメント 5

授業改善の取り組み内容（一部、抜粋）

■ 授業科目・内容

英語・外国語

○LHRなどを利用し、国際的視野を広げるような講演会などを企画している。クラスによっては、英語による理科の授業を実施。長期休暇を利用し、(ネイティブ)ホームステイを伴った短期の語学研修、またJICAに協力してもらい、開発途上国への短期研修などを実施している。(山梨県/私立/普通科/キャリア教育非実施校)

■ 専門科目・実技・演習・創作活動

○実習や課題研究など、週に6時間は一斉講義型でない授業を行っている。(島根県/県立/その他/キャリア教育実施校)

■ 指導法・ツール

グループワーク・グループ学習

○少人数グループをつくりグループ内で説明し合える環境を整えて問題演習が単に正解を知るだけにとどまらないように努めている。解答がグループ内で分かれたときは説得(自分の解をグループ内に納得させる)できるかどうかポイントを置いている。(奈良県/県立/普通科/キャリア教育実施校)

■ プレゼンテーション・発表

○「総合的学習の時間」や「社会と情報」など、プレゼンソフトを利用した最終発表を前提とした課題については、進路先研究や現代社会における問題点などをテーマとして発表機会を設けている。(東京都/私立/普通科/キャリア教育実施校)

■ 取り組み・実施体制

校内研修(講師招聘・研究授業)の実施

○教員が年1回以上、授業公開して、互いに批評し合う。職員会議等で事例発表をする。(岩手県/県立/普通科/キャリア教育実施校)

○授業力向上研修会の定期開催。先進校の先生による講習会。(神奈川県/市立/普通科/キャリア教育実施校)

教員個人による取り組み

○若手の先生を中心に、グループワークによる授業展開とか、実体験としての理解を深める授業等。(東京都/都立/普通科/キャリア教育実施校)



### 3

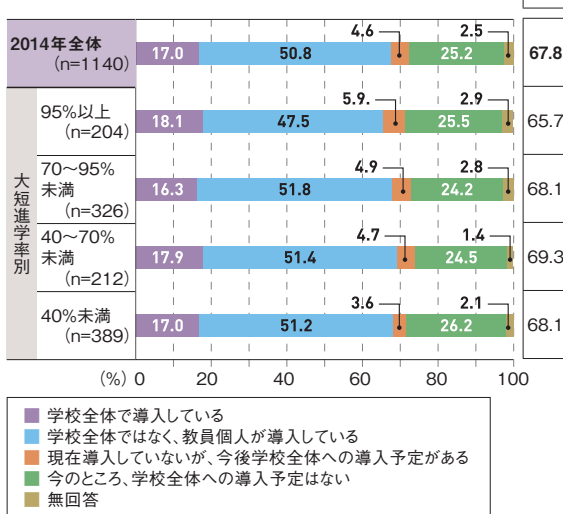
# 影響不可避なグローバル化、授業改善ツールのICT

全体の24%がグローバル社会を意識した教育に取り組み中

今後進むと予測される社会のグローバル化を意識した教育に取り組みでいるかたずねたところ(図表24)、「現在取り組んでいる」は24%。過半数が未着手だが、「今後は取り組みたいと考えている」34%、「今後も取り組みむことは考えていない」39%と、意向は分かれる。大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど実施率は高く、進学率95%以上校では40%が現在取り組み中である。

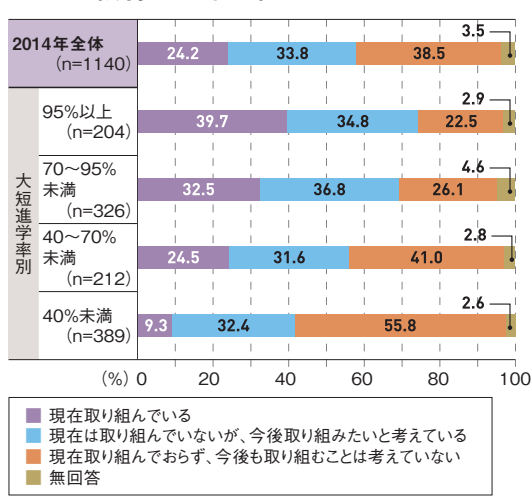
グローバル化は高校教育に影響があると思うかを5段階でたずねた(図表25)。「影響がある」は44%、「どちらか」と影響がある」43%を合わせ、全体の87%が影響あると考えている。大短進学率別にみると、実施率・意向率が低い進学率40%未満校でも82%の学校で影響があると考えている。グローバル化の進展を感じつつも、まだ取り組んでいないのが現状のようだ。

図表 26 ICTを使った教育(授業)の導入 (全体/単一回答)

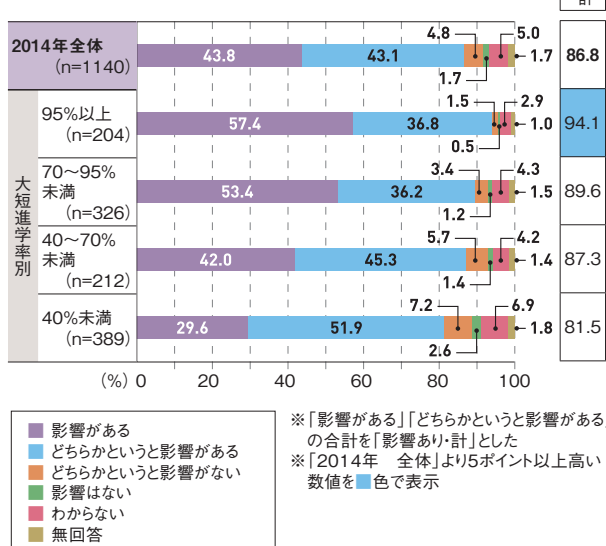


※「学校全体で導入している」「学校全体ではなく、教員個人が導入している」の合計を「導入・計」とした

図表 24 グローバル化を意識した教育への取り組み (全体/単一回答)



図表 25 グローバル化の高校教育への影響 (全体/単一回答)



※「影響がある」「どちらかという影響がある」の合計を「影響あり計」とした  
 ※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を色で表示

#### フリーコメント 6 グローバル化への取り組み内容

- 海外の学生を本校に招き、意見交換し、多様な考え方を身につけさせる。海外へ研修旅行などで行かせ、視野を広げさせる。(北海道/私立/普通科)
- 英語でのネイティブ教員による会話を重視した授業、海外での短期語学研修、模擬国連大会への参加等。日本の文化を体験する宿泊行事。(神奈川県/私立/普通科)
- 国際経済、国際政治を中心に新聞等の話題を提供し意識づけを行うよう取り組んでいる。(鹿児島県/市立/専門高校)
- 科学英語の強化。英語によるプレゼンテーション実践。(茨城県/私立/普通科)
- 中1~高2まで一斉にGTEC for STUDENTSを行い、英語力の推移を見て指導している。また、英語の重要性、グローバル社会の環境を理解させるガイダンスを行っている。(大阪府/市立/総合学科)
- 英語力、国語力を向上させ海外に赴任する可能性や外国人の人達と働く、学ぶ可能性を教える。海外修学旅行の実施。(東京都/都立/専門高校)

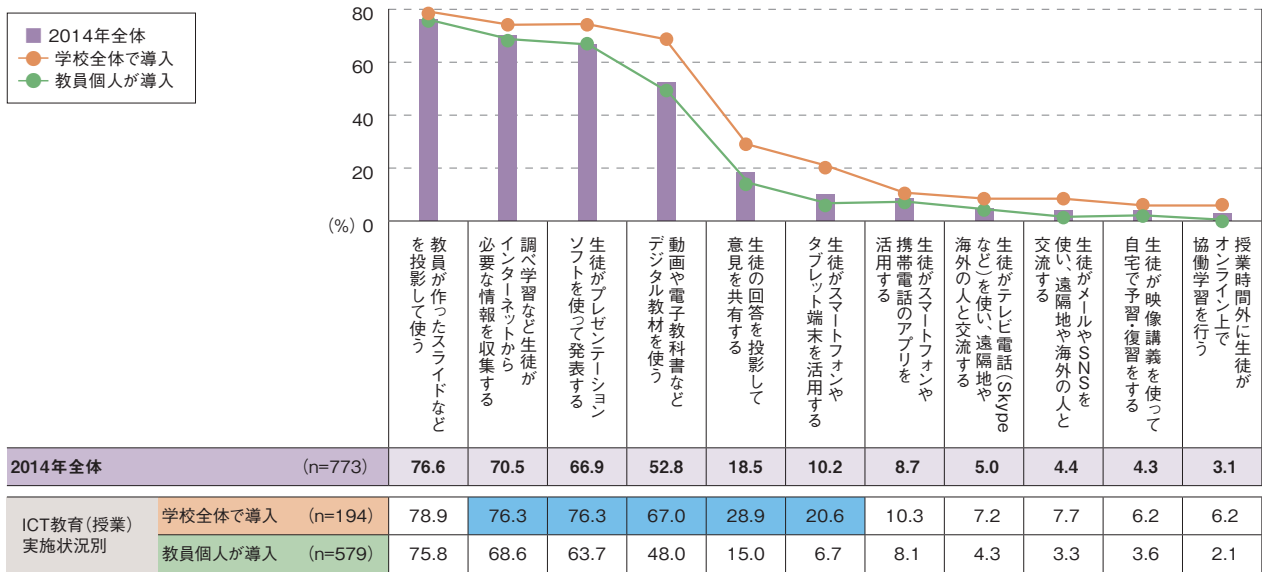
ICTを使った授業は  
教員個人の取り組みが中心

ICTを使った授業の状況(図表26)は「教員個人が導入している」は51%が最多、「学校全体で導入している」は17%。教員単位の取り組みを中心に全体の68%が導入している。データは割愛するが、キャリア教育実施校の導入率が非実施校に比べ高い。

取り組み内容(図表27)は「教員が作ったスライドなどを投影」77%が最多。ついで「調べ学習など生徒がインターネットから必要な情報を収集する」71%、「生徒がプレゼンテーションソフトを使って発表する」67%、「動画や電子教科書などデジタル教材を使う」53%。学校全体で導入している高校では、生徒自身がインターネット・デジタル教材を使用する授業が多い。

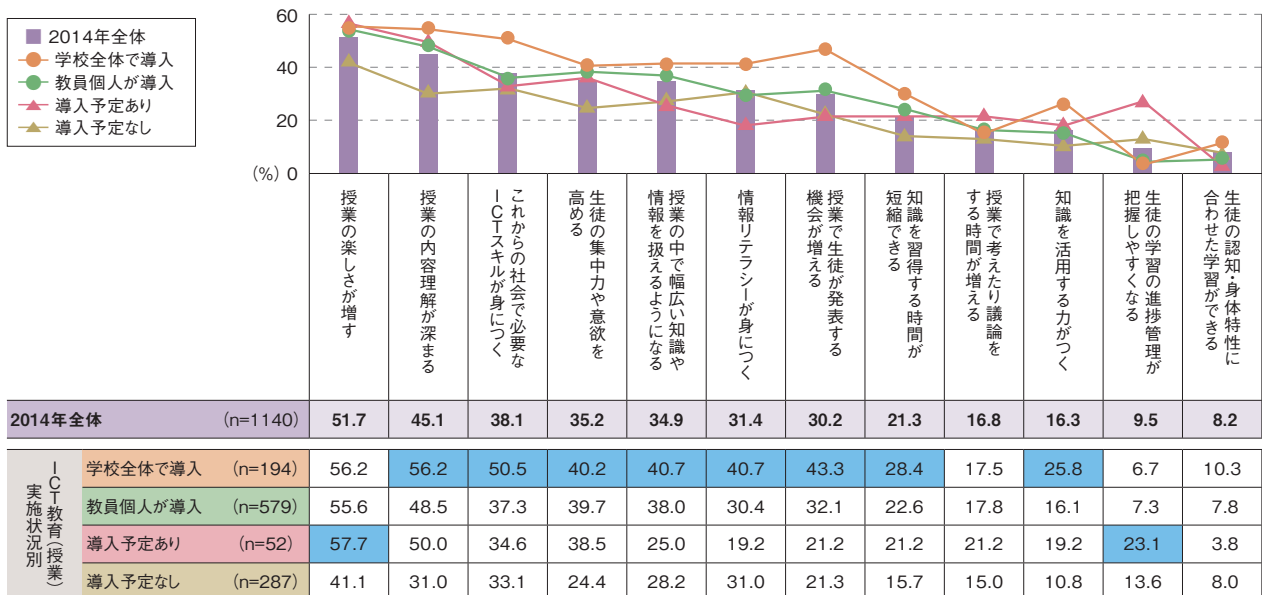
ICTを使った教育の効果をどうとらえているか(図表28)。トップは「授業の楽しさが増す」52%で「授業の内容理解が深まる」45%、「これからの社会に必要なICTスキルが身につく」38%がつづく。導入校・導入予定あり校では、「授業の楽しさ」「授業の内容理解」など、授業改善につながるのと前向きなとらえ方が顕著である。

図表 27 ICTを使った教育(授業)の取り組み内容 (ICTを使った教育実施校/複数回答)



※「2014年 全体」の降順 ※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示

図表 28 ICTを使った教育(授業)の効果 (全体/複数回答)



※「2014年 全体」の降順 ※「2014年 全体」より5ポイント以上高い数値を■色で表示